

高齢者の異常をセンサーで検知し、離れて暮らす家族にお知らせする見守りシステムを開発

周南マリコム株式会社

http://maricom01.jp/

高齢者向けの緊急通報・生活サポートシステムを中国・九州地方で運営・サービス展開する会社です。

■業種：電気通信工事業 ■従業員：65人 ■資本金：16,000千円

●目的・課題

既にサービス提供している緊急通報事業は、端末機の緊急または相談のボタンを押せばコールセンターにつながるサービスで、60自治体に約1万2,000件導入、コールセンター通報は年間14万件という実績を有しているが、ボタンを押さないと通報できないという点が課題であった。少子高齢化や核家族化が急速に進み、独居高齢者や高齢の夫婦のみで暮らす高齢世帯が増える中、離れて暮らす高齢の親を持つ「40代、50代の見守り世代」に対し、見守りや緊急通報サービスのIoT化は必要不可欠だと考えた。

●開発したIoT機器の概要

見守りサービスの強化を目的として、新商品見守りシステム「Sobamii（ソバミー）」を自社開発し、2020年に発売した。テレビ等の利用頻度が高い家電製品にセンサー付きプラグを取り付けるだけで、一定時間家電製品の稼働が確認できない等の異常を検知した場合、事前登録している見守り者の携帯電話に自動的に通知が届く。家電製品を24時間連続で未使用の場合、

逆に12時間以上連続で使用された場合（使用状況に応じ1時間ごとに時間設定の変更可能）、「利用者様の動きがない」ということで異常と判断する。既存の緊急通報事業とリンクをさせることで、通報装置から自動でコールセンターに通報し安否確認を行うことが可能となった。

●開発したIoT機器のメリット

- ・家電製品の稼働状況（ON/OFF）の異常検知で自動的に通報できるため、緊急通報事業の課題であったボタンを押さないと通報が入らないという点が解消される。
- ・利用高齢者宅の家電製品稼働状況のデータ蓄積が可能である。



Sobamii（ソバミー）

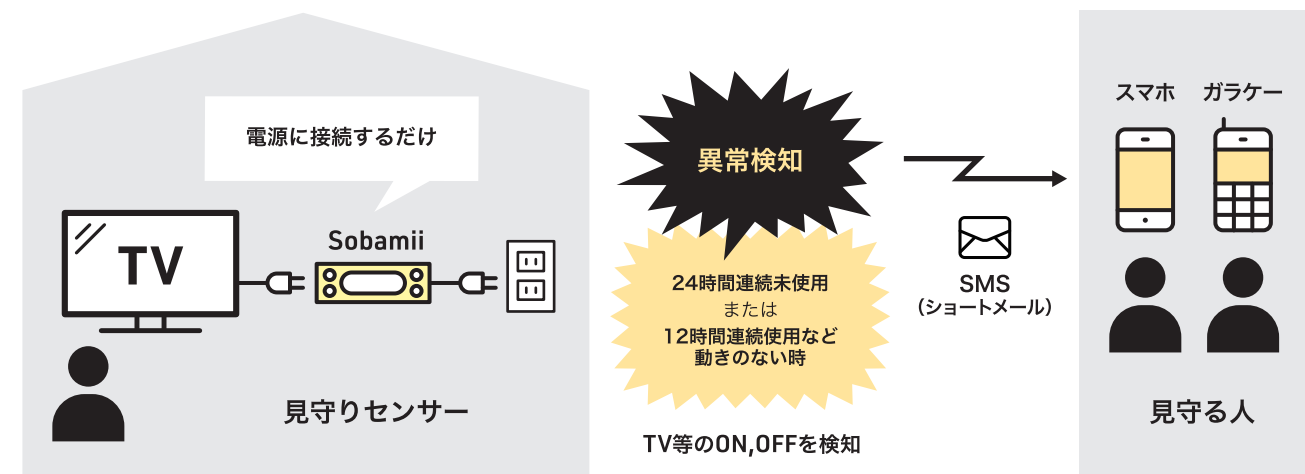
工夫した点

- 本体1台に家電製品の使用状況取得とデータ送信機能を実装しコンパクト化を実現した。
- 家電製品のプラグとコンセントの間にセンサー付きプラグを取り付けるだけで簡単に設置できるようにした。
- 見守り側の世代が使い慣れているスマートフォンで親の安否確認が行えるようにした。

Point!

今後の展開

将来的には、主力事業である緊急通報サービスのノウハウに、新たに開発した見守りシステム「Sobamii（ソバミー）」で取得できる家電製品の使用状況、加えてバイタル情報、温度・湿度計、トイレのドアの開閉などのビッグデータを収集してクラウドに蓄積し、AIを用いて解析する計画である。利用者に昼夜逆転などの生活リズムの変化や脱水症状などの何らかの異常を察知した場合、体調不良におちいる前にコールセンターから利用者にいち早く注意喚起を行えるシステムも構築する予定である。



IoT等導入ロードマップ

